

.....
本会記事
.....

2018 粉末冶金国際会議報告

2年毎に開催されている World PM（粉末冶金国際会議）は、今回 World PM2018 が China Power Metallurgy Alliance（CPMA）と The Chinese Society for Metals（CMS）の主催で9月16日～20日、中国北京において開催されました。アジアで開催される World PM は、1993年京都、2000年京都、2006年韓国釜山、2012年横浜に続いての開催となりました。会議は、北京オリンピックのメインスタジアムの鳥の巣があるオリンピック公園に隣接する China National Convention Center（CNCC）で開催されました。北京国際空港からも地下鉄を乗り継いで1時間もかからないとても便利なおところにありました。

今回の発表件数は、Oral 380件、Poster 186件、参加者は、事前登録で1251名（内海外からの参加者は531名）と主催者発表がありました。

17日朝からの開会式は、メイン会場とは違った、CNCCからバスで5分ほどのところにある Beijing International Convention Center（BICC）で開催されました。CPMAのCai Rang会長のWelcome speech、Asian Powder Metallurgy Association（APMA）の菊池勇会長のご挨拶があり、続いてWorld PM開催時に行われるグローバルレビューが行われました。アジア地域について日本粉末冶金工業会（JPMA）の井上洋一会長から報告があり、続いてEuropean Powder Metallurgy Association（EPMA）Mr. Gundermann会長、Metal Powder Industries Federation（MPIF）Mr. Sweet会長から各地域の現況報告がありました。その後、Award Ceremonyがあり、APMAの菊池会長、CPMA顧問のLi教授とTaiwan PoriteのChu会長がOutstanding Contribution Awardを受けられ、また、JPMAの斎藤専務をはじめ今回のWorld PM2018開催に協力された7名の方がInternational Cooperation Awardを授賞されました。

開会式に続き9件のPlenary Reportsが行われました。CPMAからの依頼を受け、当協会副会長の品川一成教授（九州大学）が「Numerical Simulation of Shrinkage Distortion and Microstructural Evaluation of Powder Compacts during Sintering」の講演をされました。

翌日の18日からはTechnical Programが始まり、日本からは、Oral 20件、Poster 5件の発表がありました。日本からの発表は年々少なくなっている気がしますが、国際会議が多数開催されていることやWorld PMの会議登録費が他の会議と比べやや高額になっていることが要因であるようにも思います。

展示会場では、116社の展示出展がありましたが、昼食の時間帯に覗いたせいか、いつもの展示会場に比べるとやや来場者が少ないように見受けられました。

会期中の18日には、APMA理事会ならびに三団体（EPMA、MPIF、APMA）会議が開催されました。両会議においてCPMAから今大会の報告があり、功労が称えられました。APMA理事会では、各団体の活動状況説明があり、特にPower Metallurgy Association of India（PMAI）からは、来年2月18日～21日、インドのPUNEで開催されるAPMA2019（第5回アジア粉末冶金国際会議）について、各団体への発表、参加の協力依頼がありました。講演募集締切りが11月末まで延期されましたので、皆さんも是非講演申込を頂きたいと思えます。また次々回のAPMA2021については、韓国で開催されること、次回アジア地区で開催する国際会議（2024年）の開催地を日本とすることが決定されました。昨年のAPMA理事会でAPMA会長交代が決定しておりましたが、本会議の場において菊池氏から台湾のChu氏に会長が引き継がれました。菊池前会長の長年のご尽力に改めて感謝申し上げます。

午後からの三団体会議では、次回World PMが、2020年にMPIF主催でカナダ モントリオール、2022年がEPMA主催でフランス リオンで開催されることが報告されました。他GPMD（Global Powder Metallurgy Property Database: <http://193.195.84.53>）の活用について周知要請がありました。

会議全体では、協会の大会、日本の会議では、撮影、録音の禁止が徹底されていますが、その周知が徹底されていないことなどは残念でした。中国北京で開催が決定した時に懸念されていた環境問題については、会期中青空を視むこともでき、Visaなども大きな問題なく終了できたようです。（井上羊子）

